



## 福岡女子大学 環境科学研究講座

4月24日(水) 講義Ⅰ・5月8日(水) 実験Ⅰ

### 実験ⅠA【オタマジャクシを解剖して脊椎動物の体を調べてみよう】

国際文理学部 環境科学科 准教授 弓削 昌弘 先生

普段、オタマジャクシのような小さな生き物に自分たちと同じように臓器があってそのおかげで生きているということを考えたことがなかったので、感動しました。今回の実験で、体の仕組みの細密さや生命の神秘を感じ、学ぶことができました。

園田 翔太郎(香椎第2中出身)

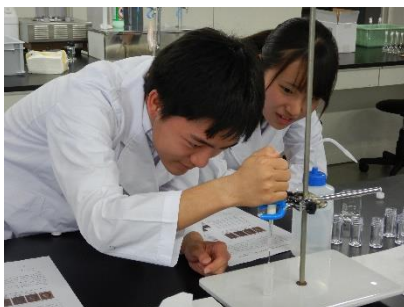


### 実験ⅠB【表面張力を測定する】

国際文理学部 環境科学科 教授 池田 宜弘 先生

濃度の違う2つの試薬を使って表面張力を調べました。普段使っている「はかり」は小数第1位までしか測定できませんが、大学の実験室にはもっと小さな値まで測定できるものもありました。実験の結果を考察する際には、単位計算についても学ぶことができました。日頃から単位について気を付けていきたいです。

田口 義人(古賀東中出身)



今回の実験ではとても細かい数字や多くの単位を使って計算したので、最初はとても大変でした。使用した量りはとても繊細なもので、触れたことのない器具だったため緊張しました。とても分かりやすい講義・実験だったので、表面張力について更に詳しく学びたいと思いました。大学生になったら、世の中の役に立つ研究をしたいと思いました。

武井 薫子(吉塚中出身)

4月24日(水) 講義Ⅱ・5月15日(水) 実験Ⅱ

### 実験ⅡA【ナメクジの学習行動実験】

国際文理学部 環境科学科 教授 松尾 亮太 先生

まず、先生が解剖で取り出したナメクジの脳を観察しました。思っていたよりも構造が複雑だったことがとても印象的でした。実験では、事前に条件付けた個体のほとんどが嫌がる反応を示していて、ナメクジの知的能力や記憶力の高さを確認することができました。

飛永 浩貴(粕屋中出身)



ナメクジの学習行動実験を始める前に脳の摘出と解剖の様子を見せていただきました。先生はとても手先が器用で、自分も先生のように上手に解剖できるようになりたいと思いました。実験では、ナメクジの動きの速さに驚かされ、多くのことを学ぶことができました。

佐藤 小雪(和白中出身)

### 実験ⅡB【火力発電モデル実験と排ガスの測定】

国際文理学部 環境科学科 教授 馬 昌珍 教授

この実験では、実験の内容や結果だけでなく、エネルギーや環境問題についても考えることができました。汚染物質がどのような仕組みで発生し、人体や環境にどのような影響があるのかを詳しく説明していただき、とても興味深い内容でした。「環境汚染の防止・改善のために、学生として何ができるか」を考え、環境問題の解決に少しでも役に立つことをしようと思いました。

山本 峻輔(志免東中出身)

